

## 最優秀賞

神奈川県共同募金会長賞

『ごめんなさい』を『ありがとう』に』

伊勢原市立中沢中学校

一年 石垣

檀

「『ごめんなさい、すみません』と頭を下げ続けていると落ち込みます。」

ネットニュースを見て、こんな言葉が目についた。これは、三年前に脊髄を損傷し、車いすで生活している女性のツイートだ。

「電車で移動中でのこと。車いすの介助を申し出た駅員と改札口からホームに向かう途中でした。」

『申し訳ございません』

『車いすが通ります』

『ご迷惑をおかけします』

大声で連呼する駅員。」

普段、車いすが通るときに、僕がこの声かけを聞いても、特に「ひどい」とは思わないだろう。ただ、注意喚起をしているのだ。でも、いざ、こういった記事を見てみると、車いすの人側の気持ちに分かる気がしてくる。

『ご迷惑をおかけします』

と言うと、まるで車いすの人が邪魔な存在かのようなのだ。確かに車いすは大きくて、幅をとるけど、好きでけがをして車いすに乗っているわけではないのだから。

この投稿に、ネット上では賛同する意見が次々に寄せられた。

「確かに：電車に乗ることが迷惑みたいな感じでもんね。私は駅員さんと仲良くなることが多いので『通りまーす！』と伝えてもらってます。私は笑顔で『ありがとうございます！』と言って通ってます。目立ってしまうなら堂々として笑顔でモデルのように通ります。」

と、電動車いす利用者の方、

「両手杖で歩いているものですがやはり『ありがとうございます』と言って歩きます。すみませんより、ありがとうございますの方が感謝を伝えられる：」

などだ。確かに、「すみません」と言うより、「ありがとうございます」と言った方が、言う方も言われた方も気持ちが良いだろう。

その一方で「押してもらってるのになんだ」「障害者様だな」などと、否定的な声も相次いで寄せられたようだ。こうした意見に、その女性は

「ただ、日常で感じたこと、自分の気持ちを知ってほしいと投稿したのに、ここまで否定したり心ない意見が出たりすると、悲しい気持ちになりました。」と話している。

否定的な声を上げた人たちは、多分、何の障害もない、いたって健康な人たちだったのだと思う。そのため、車いす生活をしている人たちの「苦しさ」や「不自由さ」は分からないし、分かるうともしないのだ。だから、そんなことが言えるのだと思う。

海外では、周りにいる人が車いすに素早く気づいてくれて、さらに移動を自然に手伝ってくれるため、『ありがとう』だけで目的地に着くことができるが、日本では誰にも気づいてもらえず、よけてもくれないため、『すみません』を言い続けてやっと目的地に着くそう。どつちが良いだろう。多分全員、『ありがとう』を言って気持ち良く目的地に着きたいだろう。そのためにも、視野を広くもち、障害のある人が常に身近にいるということを考えた方が良いのだろう。

「車いす利用者に優しい社会は、ベビーカーや高齢者にも優しいものだということも感じてきました。『すぐ隣にいる自然な存在』としてコミュニケーションをとりあうことができる社会になっていってほしい」

これは最初の、車いすに乗っている女性の願いだ。こういった一人ひとりの願いを叶えることが、より良い未来につながるっていき、そして「幸せ」につながるっていくのだと思う。